



建交労



2020年9月23日
 建交労神奈川県南支部
 2020年秋季年末闘争No.2
 2019年度推進ニュース㊹通算188号
 発行責任者 佐藤 章

JAL 争議早期解決迫る 9.22 アピール 羽田空港に 200 名結集・支部は 4 名参加

JAL 不当解雇撤回国民支援共闘会議は 4 連休の最終日 9 月 22 日に羽田空港第 1 ターミナルビル前で争議の早期解決を迫るスタンディング行動を実施しました。コロナ禍での取り組みは音出し宣伝ができないなど様々な制約がありますが、この日の行動には東京や神奈川など首都圏の仲間を中心に 200 名余が結集して空港を利用する多くの人々に JAL 争議早期解決をアピールしました。建交労神奈川県南支部では佐藤委員長、清野副委員長、大島書記長、赤羽組合員の 4 名が行動に参加しました。



第 1 ターミナルビルに向けて掲げられた建交労旗

JAL は 1 日も早い解雇争議の解決を！

JAL 本社は、現在の赤坂社長が 2018 年 4 月就任直後の経営協議会で「できるだけ早期に（解雇争議を）解決したいと心から思っている」と発言、その後も昨年と今年の株主総会で同じ発言を繰り返していますが、解決に向けた具体的な動きはありません。

また、現在のコロナ禍による経営悪化への対応でも赤坂社長は「雇用維持というのは絶対条件だ」と発言していますが、JAL パイロット 81 名、客室乗務員 84 名（165 名）



支部の仲間が第 1 ターミナルビル前でアピールの不当解雇を強行したまま 10 年を経た現在も放置している経営の姿勢をみれば JAL で働く労働者はコロナ禍を理由にした解雇の不安を拭い去ることはできません。

いま JAL 経営陣がやるべきことは解雇した 165 名の労働者と正面から向き合って誠心誠意全面解決の道に踏み出すことです。

建交労神奈川県南支部は、空の安全を守るためにも JAL 争議の 1 日も早い全面解決に向けたたたかいに連帯していきます。